



フジテレビ CSRレポート 2021

FUJI TELEVISION CSR REPORT 2021

OUR VALUE & MISSION

—— 私たちが描きたい未来 ——

📺 伝える、変える



— Transforming our World —

私たちは、「伝える、変える」のスローガンのもと
テレビの強みを活かし、創造力と発信力で
SDGsが掲げる社会課題の解決に努めて参ります。
「伝える」ことで世界を「変える」きっかけづくりをすることで
持続可能な社会の実現をめざします。

WE SUPPORT



フジテレビの親会社フジ・メディア・ホールディングスは2018年4月より
国連グローバル・コンパクトに署名しています。
また、フジテレビは2018年12月に「SDGメディア・コンパクト」に署名し、
メディアとしてSDGsの推進に努めることを約束しています。

※「SDGメディア・コンパクト」とは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、
その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。

フジテレビ企業理念

挑戦と創造
challenge and creation

MATERIALITY

重要課題

持続可能な社会をめざして
パートナーシップで伝える、変える



みんなの笑顔のために

健やかで活力のある社会をめざして



➡ 13-16ページ

地球環境・レジリエントなまちづくり

環境・地域コミュニティ・防災・被災地復興支援



➡ 17-21ページ

経営基盤の安定

多様性の尊重・いきいきと働ける職場環境
コーポレートガバナンス



➡ 22-24ページ



“未来づくり”のためにメディアができること

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延は、私たちの生活や働き方に大きな変化をもたらしました。テレビの制作現場においても、多くの困難に直面しながらも、メディアとして何をすべきかを考え、実行した1年でした。そんな2020年度を「社長対談」という形で振り返りながら、これからのテレビの可能性について語り合いました。(聞き手 CSR推進部 木幡 美子)

遠藤 龍之介代表取締役社長



黒木 彰一・渡邊 貴・宮下 佐紀子

〔第二制作部〕

〔情報制作センター〕

Q

2020年度は新型コロナウイルスの蔓延というかつてない事態に直面しました。番組制作においても変化を強いられたのでは？

渡邊 そうですね。放送継続っていうのが第一だったので、『とくダネ!』も3班に分かれながら、出演者・スタッフが感染しないように、リモート取材等新たな手法を駆使して安全に伝える方法を探りました。最初は、できるのかなーと思ってたら意外とできた! みたいな。コロナ前まではどちらかというと面白い、興味があるネタを選んでたんですけど、コロナ後は、コロナ関連情報やライフラインが中心になって、本当に価値観が変わりました。全編コロナで、とにかく昨日あったこと全部伝えるんだ! という空気。でも、数字(視聴率)が動き出した時に「あー番組はそういうことのためにあったんだ」と。毎日の生活のために、人々に寄り添うために情報番組ってあるんだってことを気付かされましたね。



渡邊 貴(わたなべ・たかし)

1998年入社。情報制作局情報制作センター部長。ドラマ、営業を経て情報制作局へ。『めざましテレビ』『Mr.サンデー』総合演出、『とくダネ!』『チーフプロデューサーを経て、現在『めざまし8』チーフプロデューサー

宮下『Mr.サンデー』では、MCの宮根さんまでリモート出演になりましたからね。あと、取材力を武器にしていた番組が、取材に行けないっていう、取材の仕方が変わったってことは、まあ、苦勞しましたけど。でも、情報番組の真価が問われたというか、非常にやりがいを感じた1年でした。



宮下 佐紀子(みやした・さきこ)

1995年入社。情報制作局情報制作センター部長職。入社以来、情報・ドキュメンタリー番組を担当。これまでに『とくダネ!』『ノンストップ!』『わ・す・れ・ない!』等を担当し、現在『Mr.サンデー』のプロデューサー

黒木 いろんなことがリモートになり、人と触れ合う時間が少なくなるのは、やばいと思いました。リモート会議だと発言者も決まってしまうし、ちょっとつぶやいたADたちの発言や表情を拾うこともしにくい。ちょっとした勘違いをすることから違うものが出たりすることも結構大事なことです。

宮下 リモートだとプレストも難しい。それと、職場から消えたのは、「雑談」ですよ。「最近どう?」みたいなことが、コミュニケーションであると同時にアイディアになっていく。

黒木 化学反応がどうしても減りますね。若手の制作者にとっては厳しい環境になってしまう。

宮下 個人的にキツかったのはお酒が飲めなくなったことです。『会食命』で生きてきたので(笑)

遠藤 いや、もう皆さん、大変なご苦労だと思います。世界中どこいってもセーフティーゾーンがないという全く新しいタイプの災害なわけですよ、コロナは。そういうものを扱うっていうのは初体験だったと思うし、もう1つ言うとテレビが、特にフジテレビが得意とする「みんなで集まろう」とか「コミュニケーションを取ろう」とかそういうムードを否定しなきゃならないっていう辛さもある。

「やりたい！」で社内がひとつに

Q

そんな中でも2020年4月に世界的なライブイベント『Global Goal: Unite for Our Future』を放送しました。あれはどうやって実現したんですか？

※番組内容は11ページ参照

黒木 発表になった時に、地上波で放送できたら面白いんじゃないかという話がすぐ編成(※番組のタイムテーブルを作る部署)からあって。もう、出演者のラインアップ見たら燃えますよね。『SMAP×SMAP』でのGAGAさんとのお付き合いがありますので、そのルートで相手先はすぐ把握できたんですけど、そこからが大変でした。全世界「ノーCM」のソフトなんです。だから「2時間CMなし」というのが編成的に大丈夫かが最大のポイントで。編成・営業・CS・報道・NY支局と、あの短期間で皆さんに助けてもらって。枠が決まり、次は、当日の配信を受けてその日にオンエアなので、歌詞も含めてちゃんと日本語スーパーを載せる、という時間との戦いでした。ベテラン、そして若いディレクターたちの目の色が変わる瞬間が最高でした。



黒木 彰一(くろき・しょういち)
1994年入社。編成制作局第二制作部ゼネラルプロデューサー。入社以来バラエティを担当し、『SMAP×SMAP』『笑っていいとも!』『FNS27時間テレビ』プロデューサー等を経て、現在『キスマイ超BUSAIKU!』のプロデューサー

遠藤 まあ、こんなに時宜を得たものはなかったと思います。情報が来たら放送できるスタイルにもっていくのが、すごい短い時間で、社内横断的に苦労したと思います。僕の時代には、ライブエイド※というのがありましてね。すごい感動したわけですよ。こういう仕組みがあるんだ。当時もそうそうたるスターが出て、やっぱりその時のことを思い出しましたね。

※ライブエイド:「アフリカ難民救済」を目的として、1985年7月13日に行われた、20世紀最大のチャリティーコンサート。

黒木 ライブエイドのことは、当時担当された石田弘さんから話をずっと聞いていたんで、今回は自分たちが絶対実現するんだ、と家でリモート会議と電話をしまくって。放送日に石田さんから電話があって「お前もやったじゃんか!」って言われて…半泣きになりました(笑)

ら話をずっと聞いていたんで、今回は自分たちが絶対実現するんだ、と家でリモート会議と電話をしまくって。放送日に石田さんから電話があって「お前もやったじゃんか!」って言われて…半泣きになりました(笑)

遠藤 一般論として、アイデアが出てから番組になるまで時間がかかったり、結局つぶれるとか、そういうこともよくあるんですが、面白ければやるんだというか。面白いことをみんなに提供すれば一気に動くん、ということを学んだよね。



遠藤 龍之介社長

黒木 はい。ステイホーム中にも関わらず社内が非常にスピーディーで、応援してもらってるのがわかるので、本当に嬉しかったです。

Q

そんなコロナ禍で3波連合の「楽しくアクション!SDGs」プロジェクトが始動。『地球HEROES』を放送しました。

※番組内容は8ページ参照



渡邊 はい、『とくダネ!』で、大雨、台風、強風等について伝えていて、地球おかしいよねーって、話し始めていたんですよ。やっぱり気候変動っていうのは今までの気象で語れない、身を守るだけじゃなくてそもそも地球で起きている「何か」を解決しないとダメなんじゃないかなというところから環境をテーマにした番組の企画書を出していたんです。環境問題とか、学び系のものって難しいって言われていたんですけど、芸人さんと掛け合わせることで、「楽しく救っちゃおう」みたいな。

遠藤 やっぱりこういう番組って、時として啓蒙とか押しつけとかになりがちなんですけど、そういうカラーを取ってくれたというのは非常に間口が広くてね、SDGsにあまり関心がない人も入ってきやすいというか、そういう意味でとてもよかったと思います。

Q

視聴率という点ではどうでしょう。

渡邊 冒頭でSDGsの説明したら、ドーンと落ちて。でもSDGsを特番にするのは、ハードル高かったんですけど、EXITさんと、うまくやれたなーという部分はあって。芸さんが面白がったり、出演者同士が、こんなマジメなことやってて笑っちゃうよね、みたいなところでやると意外と面白く見られる。そこはすごくやってよかったなと思いました。



理想はSDGsとエンタメのハイブリッド

渡邊 あとはSDGsって言葉が難しくって、未だにわからない人が多い。国連が決めた17の目標で、大事なんですけど、何か新しい言葉とか、入り口をもうちょっと変えとか、テレビ局ならではのアプローチの仕方を考えていかないといけないのかなと思いますね。

遠藤 SDGsって善良なるものじゃないですか。それとエンタテインメントのうまいハイブリッドな組み合わせができたら天才的だと思うんですけどね。「フジテレビモデル」みたいなのができて、あーやられた！ってなったらうれしいよね。

Q

「楽しくアクション! SDGs」
の中では、音楽という
新しい切り口でも放送しました。

※番組内容は8ページ参照



黒木 結論からいうとSDGsというコンセプトで音楽番組を作ったのはとても面白くて、気づいたことは2つ。まず、若いミュージシャン、若いディレクターが、SDGsで音楽番組作ろうって言った時に、「本気」でした。たぶん、「自分たちがちゃんと考えないと地球がヤバイ」って思っているからです。最大限、ピュアに作りました。視聴者も若い人たちに刺さっているという感触がありました。もう1つは、歌とSDGsの相性の良さです。歌ってしまえばメッセージがそのまま伝わる。基本的にはパッケージそのものがメッセージだから、放送することがメッセージ。だから継続することが大事だと思います。『未来はぼくらの歌の中』といういいタイトルも思いついたんで、2回目やりたいて話してます。

遠藤 そうなんだよねー。僕らが若い頃って、なんか、いいことって照れるし、テレビ人だからそんなことできない、みたいな雰囲気があったけど…今の若い人って本当にまっすぐなんです。そこがぜんぜん違う。



黒木 はい、自分もずっとそう思っていました(笑)
いまの若者はマジでストレートですね。

Q

さて、2021年は震災から10年という年でした。
長期間取材を続けてきた企画が
実を結びました。

宮下 2011年、東日本大震災の発災直後に、当時の局長が、「キーワードは時系列だ!」と、とにかく映像を集めて時系列で並べて見せるだけで意味があるってことから始まっ

たシリーズが『わ・す・れ・な・い』なんです。それ以降、ほぼ毎年担当してきました。

社長の前でなんですが トップダウンではなくて

Q

民放とNHKが連動した
『キオク、ともに未来へ。』は
どうやって実現したんですか？

※番組内容は20ページ参照



宮下 元々は震災から9年になる2020年の3月11日に向けて、情報制作センターの濱さんとNHKのプロデューサーが共通の知人を介してつながって、「何か大きなことやろうよ」みたいな感じで始まって。だったらフジに『わ・す・れ・な・い』というずっと震災特番を制作してきたチームがあるから、そこと組んだら?と。社長の前でなんですが、トップダウンじゃなくて、現場でのつながりでいろんなことが



転がって…9年目でフジとNHKが組んだ実績があれば、10年目はその実績を引っさげて、各局をプレゼンして回って巻き込もうって言うてたら、本当に実を結びました。

局の垣根を超えて

Q

6局が一緒になってすごいことですよね。

宮下 やっぱ大義の前にはNOと言いづらいっていうのもあったと思います。テレビって、面白いところで突っ走ってという部分もあるんですけど、一方で災害報道の前に自局の利益とか言ってる場合じゃないだろうって。で、一緒にやってみると、同業他社の人と仕事をするということがすごく新鮮でした。例えば共通のタイトルひとつ決めるにも、やっ

ぱり局のカラーやこだわりが色々あるんだとか。



遠藤 現場からそういうものが出てくるとするのは、すごくいいことだと思う。各局の情報とカメラ映像が集まると、今まで以上に洪水、津波が立体的に見えて、新たな発見があったよね。まさに自分がそこの現場にいたような錯覚すら起こりうる。映像的にも音声的にも素晴らしかった。

宮下 まさに、河口から順にNHK、テレ朝、フジの映像を3つつなぎ合わせると、本当に津波が立体的に、点が線に繋がって見えたっていうのは今回初めてでした。災害報道となると、ライバルというよりは、一緒の方向に向かってやれる感じがしたんですね。6局でやったNHKの討論番組の収録でも、前室で各局のスタッフが膝を突き合わせてああでもないこうでもないって、まずないじゃないですか。



すごく楽しくて、そんな人間関係ができたことが実は番組を一緒に作ったこと以上に大きいかない感じがしました。番組内で出た、「震災映像のアーカイブ構想」みたいなことも、ぜひ実現したいです。

遠藤 最近大きなテーマでまとまろうみたいな話が増えましたよね。ひとつはNetflixとかAmazonとか海外資本が来て日本のテレビ守んなきゃ、みたいな風潮があったりするし、それからSDGsみたいなムーブメントが広がって、一緒にやれることがすごく増えてきたんじゃないかな。

Q

最後に、テレビを次世代につなぐにはどうしたらいいでしょう。

宮下 若い子たちは、例えばSDGsのことを、我々の世代のようにちょっと斜めから見るのでなく、本当にいいことだと

信じて、これからテレビ番組を作っていく。彼らが見たいものを作っていくことに、あんまり“意地悪ばあさん”にならないように、考え方が違うところはあんまり邪魔せず、道を開かなきゃいけないのかなあとと思います。

黒木 若者、面白いです。みんな、かわいいです。でも、これからの時代の中で、例えば10年後どんなテレビ局を作りたいかっていうのは、彼らが本気で考えるしかない。難しいです。僕らの経験が邪魔する部分もあれば、また、助けられる部分もあるし。まあ、自分が今まで先輩からしてきて貰って嬉しかったことはたくさんあるので、それをシンプルに渡そうと思ってやってます。

遠藤 現場の若い人たちからこういうことやりたいですと、出てくるのが正しいよね。私がSDGsのこういう番組を作ってくださいというのは、やっぱりおかしいから、ぜひそういう企画が出るといいなと思いますね。一方で、今はコンプライアンスや危機管理の問題があって、痛切に思っていることは、昔よりやっちゃいけないことは当然増えてるんですよ。けども、今、本当にやってはいけないことの3歩、4歩手前くらいで企画が止まったりとか、自主規制してたりする気がするんで、それともうちょっとチキンレースで言うと、車を前に進めてもいいんじゃないのって感じはあるかな。

やめるのは簡単、しがみついても継続

宮下 震災のことで言うと、結果的に継続の力はすごく大きくて、『わ・す・れ・な・い』シリーズは10年続けてきたから各局と組めた。7年とか8年の時にやめるのは簡単だけど、10年経ったときに切れずにやってきたことが成果になるので、SDGsももう続けるって決めたら、しがみついても続ける。それが成果になる時が来るのかなって思いました。

渡邊 SDGsの話でいうと、これは大いなるチャレンジだと思うんですね。そもそも課題がでかすぎて達成可能なのか、というのもあったりするじゃないですか。でもそこにチャレンジすることが大事。それはどう面白くできるかっていうチャレンジであり、ダメだったら、新しい作り方にチャレンジし続けるっていうのも、テレビ局のSDGsへの向き合い方なのかなあと。

遠藤 確かにSDGsというテーマは大きな目標だけでも17個もあったりして、本当に課題が広いよね。

果てしない洋上を泳いでいる様な気持ちになる時もあるんだけど、それ故に皆が自分なりの発想や知恵をふくらます余地が充分にあるんだと思う。そういうのに挑戦するのって「フジテレビらしい」よね。自由に泳いだ先にきっと見えてくるものがあるんだと思います。

FIN.



楽しくアクション！SDGs 滅亡させない♡地球の作り方



フジテレビ、BSフジ、ニッポン放送 3波連合 SDGsプロジェクト始動！

2021年1月、フジテレビ、BSフジ、ニッポン放送の3社は、国際社会共通の目標として定められたSDGs(持続可能な開発目標)について、視聴者、リスナーと一緒に学び、考え、実践していくことをめざす「楽しくアクション！SDGs」プロジェクトをスタートさせました。

「滅亡させない♡地球の作り方」を共通スローガンに、「子ども

たちが安心して暮らせる未来のために何ができるのか」「この地球で暮らし続けるために見直すべきことは何なのか」等、メディアの強みを活かして伝えることで、世界を変えるきっかけづくりができればと考えています。特に、ミレニアル世代やZ世代と呼ばれる、これからの地球を支える若い世代と一緒に考え、行動するきっかけとなることをめざしています。

● オフィシャルサイト https://www.fujimediahd.co.jp/sdgs/enjoyaction_sdgs/

SDGsアクションウィーク

2021年3月1日～7日をSDGsアクションウィークと題して、情報・報道番組が連動して、地球を守るために身の回りのできることにチャレンジする企画を多数放送しました。





フジテレビが放送した番組



『地球HEROES』

～楽しく地球を救っちゃおう!!～



「ゴミゼロ」をテーマに若い世代が中心となり、問題解決への取り組みを考える番組を2時間生放送でお届けしました。身近なことから少しずつ…地球に優しい行動が「カッコイイ」と思ってもらえるようなSDGsバラエティで、地球環境やゴミ問題について考えるきっかけを提供しました。廃棄されたゴミをリサイクルした番組セットや、紙の台本をタブレットにするなど、制作過程でも環境に配慮しました。

【出演】EXIT(司会)、ぺこぱ、3時のヒロイン、鈴木福、山之内すず [2021年3月7日 12:00～14:00放送]

『SDGs音楽特番 未来はぼくらの歌の中』



第一線で活躍するアーティストたちが“未来の子どもたちに伝えたい歌”について語り、そして歌うSDGs音楽番組。コロナ禍で混沌とする中、熱量のある名曲の数々に耳を傾け、音楽を通して「未来」を思う時間を提供したいという想いで放送しました。

【出演アーティスト】上白石萌音、松任谷由実、薬師丸ひろ子、ハナレグミ、森山直太郎、秦 基博、森内寛樹、DISH//、アイナ・ジ・エンド、原田マハ、出川哲朗、常田大希 (millennium parade / King Gnu)

[2021年3月17日 22:00～23:34放送]



『EXITの未来を本気(マジ)で考える ～フューチャーランナーズSP～』



SDGsの課題解決に取り組む人たちを紹介するミニ番組『フューチャーランナーズ』(※9ページ参照)の特別編。食料廃棄物を豚の餌に変えブランド豚として食卓に戻す“循環型”社会をめざす取り組みや、自ら考え行動するための“未来の授業”をEXITが体験。更に、過去に番組で取り上げた“ランナー”たちのその後も紹介しました。

【出演】EXIT(司会)、ミルクボーイ、ネイチャーバーガー、長島美紀 (SDGs市民社会ネットワーク)
[2021年3月20日 14:30～15:25放送]



『サロガシー 母ではなく、私になる。』

第32回ヤングシナリオ大賞※で、1,567編の応募作品の中から大賞に選ばれた的場友見さんのシナリオをドラマ化した作品。同性愛者の兄のために、そのパートナーとの子どもを代理母出産するというストーリーで、生きづらさを抱えるこの時代に生きるすべての人にとって、互いの存在を受け入れ自らを肯定できるきっかけになればとの想いで制作しました。

※「ヤングシナリオ大賞」は、新たなシナリオライターの発掘を目的とし1987年に設立されたシナリオコンクールです。才能の発掘だけでなく、実践的なシナリオワークショップを実施し、クリエイターの育成にも力を入れています。

[2021年3月24日 24:55～25:55放送]



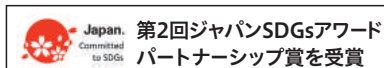
SDGsのレギュラー番組を放送、英語コンテンツも！



SDGsのミニ番組『フューチャーランナーズ』を 2018年からレギュラー放送

SDGsに特化したミニ番組『フューチャーランナーズ～17の未来～』を2018年7月から制作・放送しています。テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」を活かして、課題解決に向けて熱心に取り組む人たちを紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればという思いで制作しています。番組ではこれまでに130人以上を取材し、より良い社会をめざす“ランナー”たちの熱い想いを届けました。

〔フジテレビ（関東ローカル） 毎週水曜22:54～23:00放送〕
〔BSフジ（全国） 毎週土曜21:55～22:00放送〕



- ・英語字幕付きで放送
- ・公式サイトですべての放送内容をアーカイブ化
- ・FNNプライムオンラインで記事化

フューチャーランナーズ ~17の未来~



●『フューチャーランナーズ』サイト
<https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>

番組の英語字幕から生まれた英語教育サイト

『フューチャーランナーズ』と連動して、SDGsと英語を同時に学べるサイト「サステナ英語レッスン」を開発しました。SDGsを表現する便利なフレーズや単語、英語的発想を紹介し、その日のキーフレーズを鈴木唯アナウンサーが聞かせてくれます。

〔2020年7月～毎週木曜更新〕

●「サステナ英語レッスン」サイト <https://sasutena-eigo.fujitv.com/>



国連「SDGメディア・ゾーン」に参加



国連広報センター所長 根本かおる／朝日新聞 北郷美由紀／ハフポスト 竹下隆一郎／フジテレビ 木幡美子／聖心女子大学 須藤あまね

● UN Web TV
<http://webtv.un.org/>

第75回国連総会に合わせて国連本部が設けた発信拠点「SDGメディア・ゾーン」において、「パンデミック時におけるメディアの役割」と題し、日本のメディアと大学生とが語り合うセッションを制作しました。CSR担当者も出演しており、国連のUN Web TVでご覧頂けます。

第12回ユネスコスクール全国大会に初参加



全国で1,120校が加盟するユネスコスクール。その第12回全国大会が2020年12月6日にオンラインで開催され、フジテレビはメディアとして初めて参加しました。「サステナ英語レッスン」等SDGsへの取り組みをプレゼンし、教育現場でのフジテレビSDGsコンテンツの活用を提案しました。



特設サイト・SNS等で多角的に展開



(左から)BSフジ亀山社長／ファーストサマーウイカさん／ニッポン放送榎原社長／フジテレビ遠藤社長

● オフィシャルサイト https://www.fujimediahd.co.jp/sdgs/enjoyaction_sdgs/

番組以外にもYouTubeチャンネルやSNSでSDGsの関連情報をアップ。3社長とファーストサマーウイカさんとの対談動画やアナウンサーの公式Instagramでの発信等多角的に展開しました。



BSフジ・ニッポン放送でもSDGs関連番組を放送



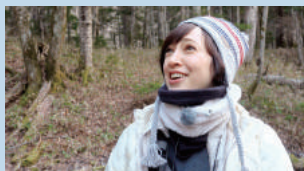
『サステナブル・ワールド
～未来へつなぐSDGs』
[2021年2月27日 16:00～16:55放送]



<BSフジ開局20周年企画>
『甦れ! 東北の鉄路2021
検証 東日本大震災から10年』
[2021年3月6日 19:00～20:55放送]



『旅する地球レストラン!
～Traveling The Earth Restaurant～』
[2021年3月6日・13日 18:00～18:55放送]



<BSフジ開局20周年記念>
『Earth Walker』
[2021年3月28日 18:00～19:55放送]



『東北魂TV』
[毎週日曜 23:00～23:30放送]



『知りたい! SDGs』
[毎週木曜 22:55～23:00放送]

2021年3月8日は「1日まるっと! SDGs STATION」
として以下を放送



<SDGs STATION>
『アクションSDGs
～この地球、子どもに残せますか?』
[2021年3月8日 11:00～13:00放送]



<SDGs STATION>
『ファーストVOICE
～あなたの声を聴かせてください』
[2021年3月8日 22:00～24:53放送]



<SDGs MAGAZINE>
パーソナリティ 剛力彩芽
[月1回放送]



フジテレビ、BSフジ、ニッポン放送は、SDGsを推進するメディアの国連の枠組み「SDGメディア・コンパクト」に署名しています。

Action
for
COVID-19

新型コロナウイルス パンデミック下の取り組み



医療従事者支援・世界的なチャリティイベントを放送

『One World: Together at Home』

非営利団体Global Citizenと世界保健機関(WHO)が、新型コロナウイルス治療の最前線で闘う医療従事者等への支援を目的として、全世界に向けて放送・配信したグローバル・ストリーミング・コンサート。フジテレビでは、この企画の趣旨に賛同し、当番組をFOD・CS放送でライブ配信・中継した他、同日深夜に地上波で日本語字幕を付けてCMなしで放送しました。

[2020年4月19日 25:30～27:40 フジテレビにて放送(関東ローカル)]

[フジテレビONE/FOD 同時サイマル放送&配信]

第2弾『Global Goal: Unite for Our Future』を放送

この第2弾として開催された「Global Goal: Unite for Our Future」でも「ワクチンの開発支援と世界各地への普及支援」に貢献することを目的に、多くの豪華アーティストが集結。このイベントの〈日本語字幕完全版〉を、フジテレビとTBSが共同で放送しました。

[2020年6月28日 25:25～27:25 フジテレビにて放送(関東ローカル)]

[フジテレビNEXT/FOD 海外版日本語字幕付き放送]



日本版のチャリティイベントも続々開催

『STAY HOME, STAY STRONG ～音楽で日本を元気に!～』



[フジテレビONE/FOD]

2020年5月6日 25:00～28:00放送]

[2020年5月6日 25:25～27:55フジテレビにて放送]

Global Goalのチャリティイベントに刺激を受けた日本のミュージシャンが、綾小路 翔実行委員長を中心に日本版とも言える番組を制作。25組を超えるアーティストがリモート収録でライブやトークを放送しました。

『MUSIC AID FEST. ～FOR POST PANDEMIC～』



[フジテレビONE/FOD 2020年5月31日 18:00～21:00放送]

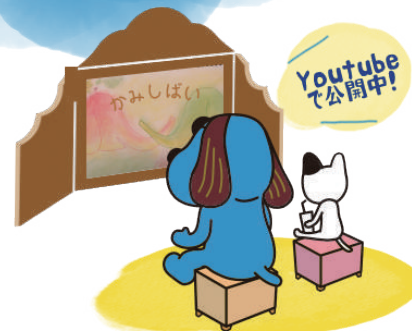
[ダイジェスト版:2020年6月16日 26:10～27:40フジテレビにて放送]

医療従事者等、最前線で働く方々を支援したいという趣旨のもと、LUNA SEAがホストとなり、オンラインチャリティフェス日本版を生放送/生配信しました。

コロナ禍における映像配信をつうじた取り組み



フジテレビ
おうち応援プロジェクト！
**デジタル
紙芝居**



おうち時間を豊かに・・・

アナウンサーが中心となって「デジタル紙芝居」を制作

おうち時間を楽しんでもらいたいという思いで新たにスタートした「おうち応援プロジェクト・デジタル紙芝居」。フジテレビの美術担当者によるオリジナルの作画とアナウンサーの朗読によりフジテレビ版名作童話が7作品完成しました。YouTubeやCSRサイトで公開している他、学校や団体等でも活用してもらうためにDVD化し、寄贈しています。

● オフィシャルサイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/kamishibai/>

作品一覧

1. 「注文の多い料理店」宮沢賢治
2. 「ブレーメンの町楽隊」グリム兄弟
3. 「ごん狐」新美南吉
4. 「蜘蛛の糸」芥川龍之介
5. 「賢者の贈り物」オー・ヘンリー
6. 「手袋を買いに」新美南吉
7. 「シンデレラ」アンドルー・ラング

映像技術を駆使しオンラインでバーチャル体験

「そらぶちキッズキャンプ」のVR映像制作



北海道滝川市にある医療設備を完備したキャンプ施設「そらぶち」の活動趣旨に賛同し、2009年から支援しています。2020年度は闘病中の子どもたちに病室からでも北海道の大自然に触れてもらおうと、

初めてVRでキャンプ体験ができる映像制作に取り組みました。夏と冬のシーンを撮影し、子どもたちに届けました。

※当施設はアジアで唯一国際難病児キャンプ団体「シリアスファンチルドレンネットワーク」のフルメンバー資格を有しています。

社内見学ツアーをライブで配信



犯罪や事故で家族を失ったご家族に対し、警視庁犯罪被害者支援室と共同でフジテレビの社内見学ツアーを企画・実施しました。オンラインによる社内見学は初めてで、1時間

にわたってノンストップ移動配信を行いました。子どもたちはPC等で参加し、番組制作の裏側を見たり、アナウンサーから発声・滑舌を学びました。

(5家族6人の子どもたちが参加)

[2020年11月29日実施]

その他のコロナ関連の取り組み

「チャリティオークションで医療従事者支援」

ヤフオク!のオークションでの収益金を、国際医療NGOジャパンハートをつうじて医療従事者の支援に充てる枠組みを構築しました。2020年8月、BSフジが開局20周年を記念したチャリティマッチプレーゴルフを実施した際、出場選手からサイン入りグッズを提供して頂き、収益金約121万円を寄付。また9月のフジサンケイクラシックでは、トーナメントの運営費の一部、105万円を同団体に寄付しました。

FNNプライムオンライン

「新型コロナウイルス特設ページ」を開設

フジ・ニュース・ネットワークが運営するニュースサイトFNNプライムオンラインでは、「新型コロナウイルス特設サイト」を開設し、日本国内及び世界各国の累計感染者の推移や、ワクチンに関する最新ニュース等、生活に必要な情報をわかりやすく発信しています。

● FNNプライムオンライン <https://www.fnn.jp/>
[2020年7月8日～特設ページ開設]

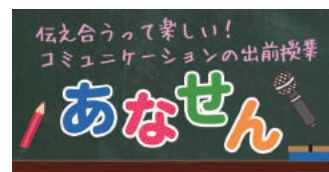
みんなの
笑顔の
ために



『めざましテレビ』のスタジオからリモート授業を行う松村未央アナウンサーと堤礼実アナウンサー

伝えるプロが子どもたちの伝え合う力をサポート

アナウンサーによる言葉の出前授業 「あなせん」体験者が2万人を超えました！



小穴浩司アナウンサーと生野陽子アナウンサー

「あなせん」(＝アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした出前授業です。デジタル世代の子どもたちにface to faceで話すことの楽しさを知ってもらい、コミュニケーション能力の向上につながればと考えています。

プロジェクト概要

対象：小学校3年生～6年生
講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]
実施エリア：関東1都6県



2020年度 | 9校 620人を対象に実施

2020年度はコロナの蔓延により例年より実施回数は減りましたが、感染対策をとりながら9校で実施、オンラインでも開催しました。

東京都

葛飾区立本田小学校／江戸川区立篠崎第二小学校／葛飾区立鎌倉小学校／大田区立仲六郷小学校／豊島区立要小学校(オンライン開催)

千葉県

松戸市立馬橋小学校

埼玉県

深谷市立榛沢小学校／新座市立東北小学校

神奈川県

横浜市立飯田北いちよう小学校



発声法を教える大村 晟アナウンサー

〈活動実績累計〉2005年から16年間で

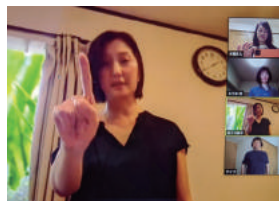
251ヶ所 約20,120人の子どもたちを対象に実施 (2021年3月末現在)

●「あなせん」ホームページ <https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



あなせん コラボ企画

ブリッジフォースマイル 児童養護施設出身の若者たちを指導



親を頼れない子どもたちが、自らの経験を語るイベント「コエール」(主催:ブリッジフォースマイル)の趣旨に賛同し、スピーチを行う4人に対して、アナウンサーがオンラインで話し方を指導しました。

[5月24日・6月21日実施]

なお、フジ・メディア・ホールディングスは、不用となった書籍を(株)バリューブックスへ寄贈することで、児童養護施設を巣立つ子どもたちを応援しています。

2020年度はフジテレビから合計129冊が寄付され、12,494円が支援にまわりました。

※2014年度からの合計 24,035冊 寄付総額 115万3,008円



東京文化会館 子どもたちに朗読と生演奏を



フジテレビと東京文化会館は、毎年アナウンサーの朗読とプロの芸術家の演奏による「朗読と音楽のコラボ授業」を小学校で行っています(10月27日 江戸川区立篠崎第二小学校で実施)。2020年11月7日にはこれを発展させた朗読と音楽のコラボイベント『3歳からの楽しいクラシック』を東京文化会館小ホールで行いました。

演目「魔法使いの弟子」

子どもたちの健やかな成長をサポート

食育出前授業「ハロー! どっこくん」



2020年 10月26日

愛知県名古屋市の慶和幼稚園の園児250人を対象に実施

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を2010年より行っています。うんちのキャラクター「どっこくん」の大型紙芝居やオリジナル体操等で構成されたプログラムで、コロナ禍の取り組みとして「どっこくん体操」をご自宅でも楽しめるようYouTubeで公開しました。全国各地の幼稚園やイベント等で実施しています。

〈活動実績累計〉2010年からの累計

190ヶ所 22,780人を対象に実施

- 「ハロー! どっこくん」ホームページ <https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>
- 「どっこくん体操」動画をYouTubeで公開 <https://youtu.be/zv5BQKpwy7M>

次世代のクリエイターを育成する取り組み

高校生の脚本を本人が監督してドラマ化! 「ドラマ甲子園」



第7回「ドラマ甲子園」大賞受賞作品『言の葉』

[2020年10月31日 20:00~20:45]

CS放送フジテレビTWOにて放送

2014年からスタートした高校生のための脚本・演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、執筆した高校生本人の演出でテレビドラマ化されます。第7回は、史上最年少当時16歳の平野水乙さんが大賞を受賞。『言の葉』は人付き合いが下手で友達ができない女子高生と、言葉が話せない少女との心温まる友情物語。また、監督に密着したメイキング番組もCS放送・FODで配信しました。若い才能を応援し、次世代クリエイターの発掘と育成をめざしています。

※2020年度「ヤングシナリオ大賞」につきましては、8ページをご覧ください。

みんなの
笑顔の
ために

誰一人取り残さない 共生社会をめざして

社屋イルミネーションAURORA∞を活用して アウェアネスカラーライトアップを実施



パープルリボン運動

グリーンリボン運動

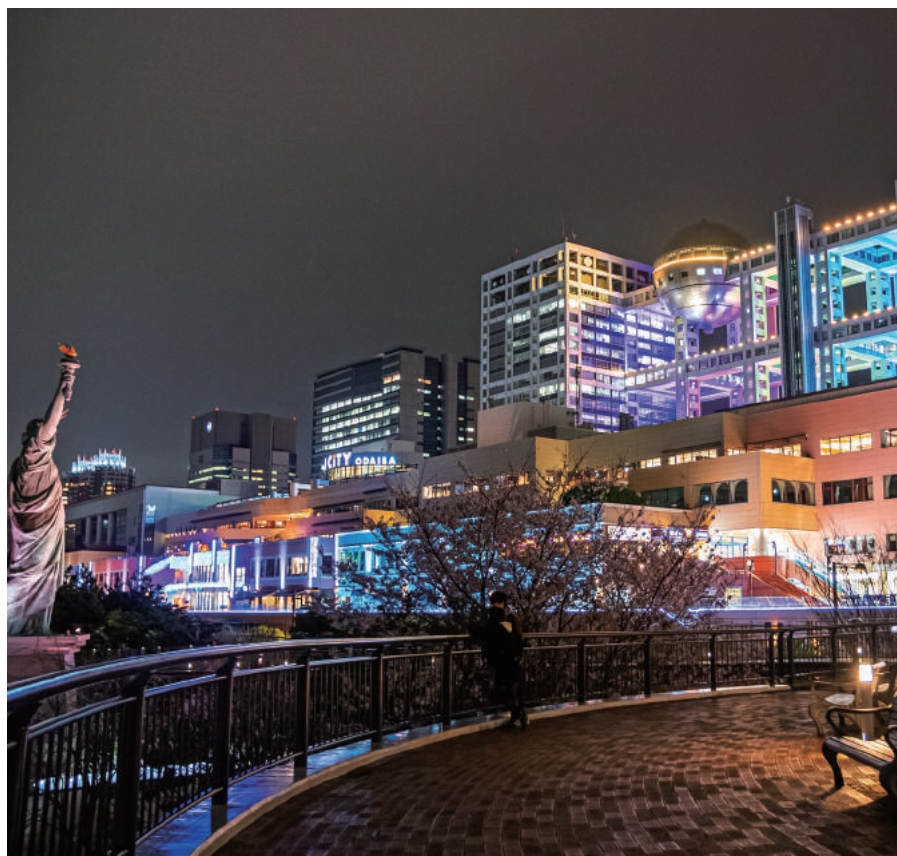
2020年度ライトアップ一覧

- 4月2-5日 世界自閉症啓発デー
- 9月18-21日 国際平和デー
- 10月1-4日 乳がんの予防啓発
- 10月16-18日 臓器移植への理解促進
- 10月30日-11月8日 児童虐待防止
- 11月10-12日 女性に対する暴力の根絶
- 11月13-15日 世界糖尿病デー
- 11月30日-12月2日 世界エイズデー
- 1月19-21日 障害者権利条約批准日
- 2月4日-7日 世界がんサードデー



オレンジリボン運動

2020年4月、フジテレビの社屋イルミネーションが生まれ変わりました。その名もAURORA∞（オーロラ）。本社ビルの球体展望室、7階庭園を中心にやさしい光で照らします。カラフルなライトアップで臨海副都心エリアのにぎわいを創出するとともに、社会課題への支援の意思を色で表すアウェアネスカラーの点灯も継続しています。



オレンジリボンでお祭りとコラボ

フジテレビが毎年支援している「ドリーム夜さ来い祭り」。11月のオレンジリボン＝児童虐待防止月間に合わせて“オレンジ”でコラボしました。お祭りの前後、社屋はオレンジ色にライトアップされ、その社屋の前に踊り子たちはオレンジリボンをつけて踊りました。



西山喜久恵アナウンサーと瀬立モニカ選手

超えろ！みんなで。 パラアスリートの言葉を発信『パラ★DO！』

「東京パラリンピック延期は人生最大のメンタルトレーニング」そう語ったのは、パラカヌーの瀬立モニカ選手。「逆境をプラスに！」パラアスリートだからこそ語れる深い言葉です。コロナ禍により時にはオンラインによる取材も駆使。西山喜久恵アナウンサーがパラアスリートの心の奥の言葉を聞き出し、パラスポーツの意義を伝え続けました。

[2020年4月～9月放送]

- 誰もがいきいきと暮らせる共生社会の実現をめざし、公式サイトでも情報を発信
<https://www.fujitv.co.jp/sports/parado/>

パラ★DO!

FNSチャリティキャンペーン 支援国「モザンビーク共和国」

「世界の子どもたちの笑顔のために」をテーマに47年にわたり実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが、放送やイベント等で募金活動を行い、ユニセフをつうじて国際貢献を続けてきました。これまでの募金総額は43億円に達しており、アジア・アフリカ等世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。2020年度の支援国モザンビーク共和国は、アフリカ南東部にある世界最貧国の

ひとつで、人口の約半数が1日1.9ドル未満を下回る生活をしており、5歳未満の子どもの43%は重度・軽度の栄養不良に陥っています。2020年度は、全世界的な新型コロナウイルスの蔓延により、現地取材や情報番組での放送ができず、また系列各社のイベント等による募金活動も大幅に制限されました。このため、2021年度も引き続きモザンビークを支援していきます。



モザンビークでは、各地で毎年のように発生する洪水や干ばつ、北部での紛争激化で、不利な立場に置かれた人々がますます危険に晒されています。また、新型コロナによる状況の深刻化も懸念されています。

イベントにおける募金活動

オンラインによる菓子パン・はちみつ等の商品販売を実施、販売者のご厚意で売り上げの一部が寄付に充てられました。

フジテレビ製作の映画収益からの寄付

映画『コンフィデンスマンJP プリンセス編』の収益から総額600万円を寄付しました。

その他 くるくるコイン募金箱・コロコロ募金箱の設置

〈2020年度の最終寄付総額〉

1,832万9,233円

経費を控除した1,766万7033円が、公益財団法人日本ユニセフ協会をつうじて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

● FNSチャリティキャンペーンサイト <https://www.fujitv.co.jp/charity/>

令和2年7月豪雨の被災地支援 「サザエさん募金」を実施

フジネットワークでは、東北地方から九州に至る広い地域で甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」の被災地復興を応援するため「フジネットワークサザエさん募金」を実施しました。

[2020年7月9日～8月17日]

みなさまから寄せられた募金総額

1億8,272万8,172円は、

義援金として日本赤十字社をつうじて被災地に送られました。



©長谷川町子美術館

「#子どもの命を守る」キャンペーン報道



Live
News
days

FNNプライムオンライン

ベビーシッターや、教育的立場にある教師等により繰り返される子どもへの性犯罪。『Live News days』では、被害者が抱え続ける心の傷、犯罪を繰り返す加害者心理、望まれる法改正等の問題を多角的に取材し放送しました。また、取材した島田キャスターが「FNNプライムオンライン」に記事を執筆し、約1,000万PVを獲得するなど、多くの人に考えるきっかけを提供しました。

● FNNプライムオンライン <https://www.fnn.jp/>

誰でも読める点字

「指でも目でも読める点字」をエレベーターに設置しました。「ブレイルノイエ」という「みんなが読める点字」で、視覚障害者は点字に触れることで意味を理解でき、その他の人は文字を目で見て認識できるようになっています。皆が共通に理解できるユニバーサルな点字です。



フジ・メディア・ホールディングス及びフジテレビ本社の障害者用エレベーターに2021年2月から設置

地球環境・
レジリエントな
まちづくり



フジ・メディア・ホールディングス各社から計42人が参加した清掃活動

環境美化活動 お台場エリアをより美しく快適に

フジ・メディア・ホールディングス全社で清掃活動を継続



2012年からフジ・メディア・ホールディングス各社の有志で合同清掃活動を年3回開催しています。2020年度は新型コロナウイルスの影響で、感染対策をとりながら7月と11月に実施。これまでに開催した回数は24回になりました。

東京オリンピック・パラリンピックも見据えてお台場を訪れる人たちが、快適に過ごして頂けるよう、地域の美化に貢献しています。

〔2020年7月22日・11月10日実施〕

東京臨海副都心まちづくり協議会と連動した活動

チューリップの球根植え

春の「花と緑のフラワーフェスタ」に向け、毎年チューリップの球根を植えています。例年、計20数社・総勢500人規模で球根を植えています。2020年は新型コロナウイルス感染防止の為、時間と日にちを分けて少人数での活動となりました。それでも春先には見事に咲き誇り、訪れる人の目を楽しませました。

〔2020年11月27日実施〕



巨大ガンダム像の近くにあるセントラル広場



環境問題を伝える・考える

『地球環境大賞 2020 ～さかなクンと徹底調査！ ニッポン環境問題最前線～』

2019年は日本中を台風や豪雨災害が襲った1年。そんな中2020年の「地球環境大賞」を受賞したのは「cmap」という災害予測のWEBサイトでした。番組では、気候変動と脱プラスチックをテーマに、ストロー廃止の世界的な動きや国内でのレジ袋有料化等注目された「プラゴミ問題」に焦点を当て、さかなクンと天達武史・気象予報士がロケに参加して、現状をわかりやすく伝えました。

[フジテレビ(関東ローカル) 10月10日 14:30～15:25放送]
[BSフジ 10月18日 14:00～14:55放送]



ミニ番組『環境クライシス』を放送

過去3回にわたり放送し、COP(国連気候変動枠組条約締結国会議)のジャパンパビリオンでも上映されるなど高い評価を得た『環境クライシス』のミニ番組をレギュラー放送しました。今回は、前シリーズの「写真家たちとともに受け継ぐべき日本の風景」で撮りためてきた映像や写真を使って、子どもたちに特別授業を実施。授業を通して、現実に行き起きている気候変動、それによって引き起こされるリスクを映像とともに伝えました。

[2020年7月～9月 毎週月曜22:54～23:00放送(関東ローカル)]



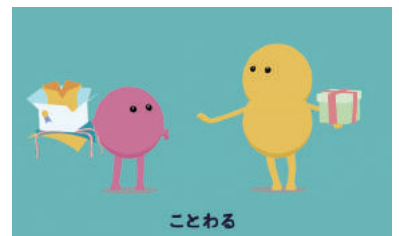
その他の環境への取り組み

民放連環境CMを制作

日本民間放送連盟では毎年、環境啓発スポットCMを制作しており、今回はフジテレビが制作しました。「やれることから始めよう 守ろう! 地球環境」をテーマに、「ゴミは分別して捨てる」「不要なものはもらわない」「電気はこまめに消す」ことを呼びかけています。

[2021年4月～2年間全国で放送予定]

● <https://j-ba.or.jp/category/topics/jba105456>



「ふくのわプロジェクト」(主催:産経新聞社)

要らなくなった衣服を回収、売却し、収益金をパラスポーツの支援に充てる「ふくのわプロジェクト」に参加しています。社員食堂の横に回収ボックスを設置したところ、予想を上回る量の衣服を回収することができました。

847.6Kgを回収・寄付しました。(2020年7月～2021年3月末まで)



「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

「30年後に子どもたちが世界に誇れる桜並木を作りたい」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」。その趣旨に賛同し2013年から協賛しており、2021年3月28日には、フジ・メディア・ホールディングス各社の有志が福島県相馬市で桜の植樹活動を行いました。これまでに植えた桜は計1,360本になりました。



有志12人で植樹

フジテレビ ずっとおうえん プロジェクト

アニメ作品をつうじた被災地支援

2020年度は、コロナのため被災地を訪れることはできませんでしたが、アニメ作品をつうじて被災地を支援する「ずっとおうえんプロジェクト2011+10…」を立ち上げました。2021年度中に岩手・宮城・福島を舞台とするアニメ作品を制作・公開します。2020年はこのアニメ作品の素材を利用して、被災地の子どもたちの支援をしている公益社団法人「ハタチ基金」の紹介動画を制作するというプレ企画を行いました。フジテレビの番組制作者の指導を受け、高校生が動画を完成させ、2021年3月YouTubeにて公開しました。



国道6号線沿いに植えた桜

「ずっとおうえんプロジェクト 2011+10…」

今後の予定
2021年4月～6月放送『バクテン!!』
2021年公開『フラ・フラダンス』
2021年公開『岬のマヨイガ』

「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビでは、2011年からオリジナルの被災地復興支援を行ってきており、これまでに**209ヶ所を訪れ、約2万5,700人を対象に**ニーズにあった支援を行ってきました。(2020年度は未開催)

レギュラー番組等をつうじて



『めざましテレビ』『とくダネ!』

『めざましテレビ』では、3月11日に被災3県をリレー中継した他、3日間にわたって震災関連企画を放送。『とくダネ!』では、小倉智昭キャスターらが、発災時から取材を続けてきた被災者を改めて取材し、放送しました。



『バイキングMORE』

サンドウィッチマンと坂上忍さん、伊藤アナが被災地を巡り、被災者の想いを伝える企画を5日連続で放送。11日当日は番組を拡大して追悼式典の様子を伝えました。

『Live News イット!』 未来へつなぐ震災10年

加藤キャスターが被災地を取材、生中継で震災10年の日を伝えました。次世代に焦点を当て“奇跡”と称えられた避難経験をした少女が、語り部になって苦悩しながら真実を伝え続ける姿を追いました。

『キオク、ともに未来へ。』 民放NHK6局共同防災プロジェクト

東日本大震災から10年を機に、フジテレビはNHKとともに、民放キー局に働きかけ、民放NHK6局共同防災プロジェクト『キオク、ともに未来へ。』が立ちあがりました。3月6日～31日の間、互いに震災アーカイブ映像を共有し取材協力を行いながら、各局がそれぞれニュース企画やドキュメンタリー番組等災害報道に取り組みました。



『あしたの命を守りたい～ NHK民放 取材者たちの震災10年～』



NHKで放送されたこの討論番組では、史上初めて6局の災害報道に携わったキャスターや記者が一堂に会しました。NHKの鈴木奈穂子アナとフジテレビの伊藤利尋アナが司会を務め、「あしたの命を守るために何ができるか」「災害の教訓をどう生かしていくか」等について、それぞれの取材経験等をふまえて活発な議論を展開しました。

[2021年3月14日 13:50～15:00放送]



『Mr.サンデースペシャル わ・す・れ・な・い 宮古市を襲った5つの津波』

[2021年3月7日 21:00～23:09放送]

『わ・す・れ・な・い 未来へ…10年目の総検証』

[2021年3月11日 15:15～16:50放送]

これまで22回の放送を重ねてきた『わ・す・れ・な・い』シリーズ。今回は各局から提供された津波の映像も交えながら、2つの番組で津波被害の実態について多角的に検証しました。いろいろな角度から撮影した映像を組み合わせることにより、より詳細な状況が浮かびあがる内容となりました。



その他の番組

ザ・ノンフィクション『わすれない 僕らが歩んだ震災の10年』

宮城と福島で、家族や仲間、故郷を失った少年と少女が歩んできた10年を追った記録を、2週にわたり放送しました。10年の歩みを振り返る“旅”で、20代になった彼らがそれぞれの本当の想いを語ってくれました。

[2021年3月7日(前編)・14日(後編) 14:00～14:55放送(関東ローカル)]



石巻・大川小の「てっちゃん」こと只野哲也さん

『Live News α』

～震災10年 ミライへのヒント～



これからの時代の防災・復興のヒントになる革新的な取り組みを紹介しました。
「34歳女性社長が描くサステナブルな福島の復興」
「会津で進むデジタル防災」
「コロナ禍の避難所でも活用可能な次世代パーティション」
「被災地企業が学んだ有事対応戦略」

『希 HOPE!』 スポーツがつなぐ未来』



あの日から10年、アスリートたちは震災とどう向き合ってきたのか？スポーツがつかない被災地との絆、復興活動の裏側にあった知られざる葛藤等を、アスリート自身がナビゲーターとなって伝えました。

[2021年3月13日 15:30～16:30放送]



BCP対策・防災への取り組み

いざという時に備え災害放送訓練を実施

系列各局と協力して毎年大規模な災害放送訓練を実施しています。2020年度は、首都直下地震による広範囲の停電を想定したFNN地震訓練を行い、フジテレビの報道機能が低下した際の系列各局との連携や、新宿支局機能の活用及び通信障害時の取材について確認しました。浮かび上がった問題点や課題を分析し各局の態勢づくりに活かしていく他、日頃から速やかな放送を心がけて定期的に訓練しており、今後も継続していきます。

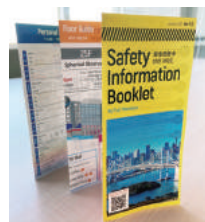


春と秋に「防災ウィーク」を実施

災害時でも放送を継続することはメディアの重要な使命と認識し、2011年から「防災ウィーク」と称して社内で働く人たちを対象とした防災訓練を毎年2回、約1週間にわたり行っています。2020年秋は、コロナ禍の訓練として、防災基礎知識を身に付ける目的で、クイズ形式の「防災eラーニング」を実施。また、2021年春は社内イントラネットを活用し、テレワーク中でも保存食の保管場所や首都直下地震の動画を視聴できるWEBページ「おうちで防災テレワーク」を作成したり、発災時初動対応や災害対策本部会議等をオンラインにする事で、出社困難な状況下での情報共有も可能にしました。

[秋 9月7日～11日 春 3月8日～12日]

外国人向け 災害情報冊子& WEB版を制作



Safety Information Booklet

訪日・在日外国人向けの災害情報冊子及びWEB版を制作しています。外国人がアクセスしやすいコロナ関連サイト情報をはじめ、日本語が話せない外国人のために、病気になったり災害、犯罪等に遭遇した際に、発信したい内容を即座に日本語で伝えられる「指さし会話集」をまとめた他、救急時に使用できるWi-Fiサービスや、血液型やアレルギー、既往病歴等の個人情報欄を任意で記入できる欄も設けました。

社内の「3R」の取り組み

REDUCE [発生抑制]

REUSE [再利用]

RECYCLE [再生] を呼びかけ、

全社で地球環境改善のための取り組みを実施しています。

その結果

2020年度のゴミリサイクル率は

99.2% でした。

温室効果ガス削減への取り組み

地球温暖化防止のため温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。2020年度のフジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は**19,752(速報値)トン**で、25%の削減目標を大きくクリアして約**35%**削減を達成しました。

社内の省エネ・省資源等の取り組み

環境行動計画

お台場議定書

— 今、はじめよう! —

① 一緒にエコ考えよう

フジテレビは、テレビ番組や各種のイベント等をつうじて地球環境の保全や身近なエコ活動について情報の提供を行い、地球環境の重要性、緊急性について一緒に考えていきます。



② 一緒にエコしよう

フジテレビは、日々の企業活動で環境負荷の小さな放送設備、機材の導入、ゴミ分別の徹底、リサイクルの推進、グリーン調達の促進や省エネルギー、省資源等のエコ活動と一緒に取り組んでいます。

③ 一緒にエコ確かめよう

フジテレビは、温室効果ガス削減やゴミ分別等について、目標を定めて活動し、その結果を公表します。更に、世界の環境活動等の情報を提供し、地球環境保全の成果と一緒に確認するとともに、継続してエコ活動を進めています。

人材育成と 職場環境



2020年度の新入社員

多様な人材を採用

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。海外の大学を卒業する留学生や、外国籍の方の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、社員が自らの成長を実感しながら仕事に取り組めるよう、様々な研修制度やセミナーを実施しています。

定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。

短期インターンシップ

採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、スポーツ、美術、技術部門で学生に向けた就業体験を行っています。

働きやすい職場環境

社員が働きやすい職場環境を実現するために、会社の制度としてサポートする体制を整えています。

社員の健康のために

2020年度、厚生労働省ががん対策に積極的に取り組む企業を表彰する「がん対策推進企業」として表彰されました。

- 定期健康診断、人間ドック、脳ドック、婦人科検診
- 生活習慣予防指導を実施

福利厚生制度

- 社内健康相談センター（健康相談室、歯科診療室、マッサージ室）
→ 総合内科・眼科・整形外科等の診療や健康管理、健康相談等
- 社員食堂でバランスのとれた食事を提供
- 理容室
- 書店
- 軽井沢保養所
- 箱根彫刻の森クラブ（フジサンケイグループ事務局）
- ベネフィットステーション（福利厚生アウトソーシング）



テレワーク・時差出勤の導入

- 午前9時半から午後5時半までの就業時間を柔軟化

育児支援

- 養育休職（最長で小学校就学前まで取得可能）
 - 養育時短（1日最大2時間 小4の3月まで取得可能）
- ※一定の条件を満たした場合

復職支援

- 復職支援制度
→ 長期の傷病休職から円滑に復職できるよう、サポート制度の充実
- ジョブリターン制度
→ 配偶者の転勤や家族の介護、育児を理由に退職する社員が対象

介護支援

- 介護休業 → 家族に介護が必要となった場合、最大1年間取得可能

女性活躍推進

女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としました。

目標1

「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。

2020年度採用実績

40.5%

目標2

「男女の平均勤続年数の差異」を中長期的な期間でも維持・縮小できるように努力する

2020年3月末実績 平均勤続年数

男性 **19.40年** 女性 **17.82年**

視聴者と
ともに



番組審議会を開催



番組審議会は、放送番組の適正を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2021年4月現在、有識者で構成された審議委員は8人。月に1回（8・12月は休会）、様々なジャンルの番組を審議対象に、委員から忌憚のないご意見やご指摘を頂き、社長、担当役員、局長他、番組担当者とのディスカッション等を行っています。2020年はコロナ禍の中、オンラインでのテレビ会議形式をとることにより、一度も休会することなく開催しました。議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組づくりに活かされています。また、議事録ダイジェストを社内にも共有、概要はホームページに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送しています。

社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは制作担当者に届けるとともに、社内イントラネットへの掲載をつうじ、社内にも共有しています。また、月に1度「社外モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換を行っています。この1年はオンラインでの会議参加となりましたが、対面時と遜色のない活発なディスカッションを行うことができました。

ご意見・お問い合わせ

視聴者サービス推進部は、フジテレビの「窓口」として、視聴者からのご意見やお問い合わせを、コミュニケーションを図りながら電話でお伺いするとともにメールによる投稿も受け付けており、今後の番組制作等に役立つよう番組制作者や関係各部署に伝えています。

2020年度に頂いた ご意見・お問い合わせ	●電話 約56,000件 ●メール 約428,000件
--------------------------	--

放送コンプライアンス

番組基準を定め、基本的人権の尊重をその基本方針の1つとしています。取材、番組制作、放送等において、人権を侵害することがないように真摯に取り組んでいます。放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」（一般社団法人日本民間放送連盟発行）を全社員・スタッフに配布しています。また、「放送コンプライアンス委員会」（月1回）を筆頭に、階層ごとに4つの会議を定期的に開催し、迅速な情報共有からトラブル防止の検討まで、活発な意見交換を行っています。



放送30年目を迎えた “自己検証”番組 『週刊フジテレビ批評』

テレビやメディア業界に関わる様々なトピックスを視聴者に届けるこの番組は、民放初の自己検証番組として1992年4月にスタート、今年で30年目を迎えました。視聴者から寄せられた意見や「番組審議会」の審議内容、専門家による番組批評とともに、ドラマやバラエティ、スポーツ中継やニュース制作の舞台裏を披露、また放送の最新技術やBPOの見解発表等テレビにまつわる事柄を解説し、“テレビ”をより深く理解でき「メディアリテラシー」の向上につながる番組を追求しています。また近年は、メディアにもその責務が問われている防災やSDGsに関する啓蒙にも積極的に取り組んでいます。

[毎週土曜 5:30~6:00放送]

● 番組サイト <https://www.fujitv.co.jp/newhiho/>

コンテンツにおけるバリアフリーの取り組み

字幕放送

聴覚障害者や高齢者等、テレビの音が聞こえにくくなった方々にも番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を文字にして画面に表示する字幕放送を行っています。

〈2019年度実績〉

付与可能時間に対する
フジテレビの付与率 **100%**

総放送時間に対する
フジテレビの付与率 **60.4%**
(前年比+0.6%)

ニュース等では、生字幕(リアルタイムで字幕を付ける)の付与を進め、更に生放送のバラエティやスポーツ中継等でも積極的に字幕を付けています。CM字幕放送も増やすべく対応を進めています。

解説放送

目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。場面設定や出演者の動き等をナレーターが簡潔に説明します。

〈2019年度実績〉

付与可能時間に対する
フジテレビの付与率 **17.5%**
(前年比+0.6%)

総放送時間に対する
フジテレビの付与率 **5.6%**
(前年比-0.1%)

※前年より生放送が増えたため
(解説放送は録画番組にのみ付与可能)

映画

2020年度は以下の4作品で、音声ガイド・日本語字幕ガイド上映を行いました。

〈2020年度公開作品〉

『コンフィデンスマンJP
プリンセス編』

『弱虫ペダル』

『とんかつDJアゲ太郎』

『約束のネバーランド』

※後日発売される
DVD・Blu-rayにも
字幕を付与

ガバナンス・マネジメント体制

フジテレビでは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、全ての人が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現に努めます。基本的人権の尊重等民主主義の原則を貫き、公平かつ平和で自由な社会を守るために努力します。そのためにコーポレート・ガバナンス／内部統制／コンプライアンスの仕組みを整備し、実効性を高め、会社の

持続的な成長と中長期的な企業価値の向上をめざして、社会からの信頼に誠実に応えて参ります。

● 詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/governance.html>
<https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/compliance.html>

2020年度の主な受賞作品

2020年度新聞協会賞受賞

『コロナ重症病棟 医師たちの闘い』

[2020年7月11日放送]

新型コロナウイルスの重症患者の治療にあたる病院を長期取材し、緊急報道特別番組として放送しました。病棟内等で、感染防止策を講じた上でのべ300時間に及ぶ撮影を行い、コロナ重症化の実態と、医療従事者の献身や葛藤を、克明に伝えました。「コロナ禍に揺れる中で、知られざる医療最前線の実態を収めた映像は、後世に残る優れた報道」(日本新聞協会)であるとして民放最多記録更新となる5回目の新聞協会賞を受賞しました。



第36回ATP賞テレビグランプリ受賞

〈BSフジサンデースペシャル〉『ザ・ノンフィクション特別編

おじさん、ありがとう～

子供たちへ…熱血和尚の遺言』

[2020年1月19日放送]

「ザ・ノンフィクション」の「熱血和尚」シリーズとして放送した内容を再編集した特別編。非行や虐待等、様々な理由で親元で暮らせなくなった子どもたちを受け入れ続けた和尚に密着したもので、フジテレビ制作のドキュメンタリー番組では、初のグランプリ獲得。



2020年度日本民間放送連盟 テレビ教養番組最優秀賞受賞

『ザ・ノンフィクション

おじさん、ありがとう～

ショウとタクマと熱血和尚～』

[2019年6月2日放送]

子どもたちに手を差し伸べ続ける熱血和尚の11年間にわたる密着映像記録が高い評価を得ました。

第46回放送文化基金賞 番組部門・ テレビエンターテインメント番組 最優秀賞受賞

『奇跡体験!アンビリバボー

仲間たちとの12年越しの約束SP』

[2019年9月26日放送]

大学時代ラグビー部の練習試合中の不慮の事故で選手生命を絶たれた男性が、12年後仲間の支えにより、約束であった富士山登山に挑む姿を再現ドラマで描き出し、多くの人に勇気と感動を与えました。

東京ドラマアウォード2020

作品賞(単発ドラマ部門) グランプリ受賞

『教場』

[2020年1月4日・5日放送]

東京ドラマアウォードは作品の質の高さだけでなく、世界水準で海外に売れる可能性が高い優秀なテレビドラマが表彰されるもので、木村拓哉さんが冷酷無比な教官を演じ、高く評価されました。

第19回放送人グランプリ2020

グランプリ受賞

『フジテレビヤングシナリオ大賞』

ヤングシナリオ大賞は、1987年に創設、若手脚本家を募集、育成するもので、これまでに数多くの実力ある人気脚本家を輩出した功績が高く評価されました。

第30回日本映画批評家大賞 ドキュメンタリー賞受賞

映画『ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ』

[2020年10月公開]

世界でいちばん貧しい大統領とも言われた南米・ウルグアイのホセ・ムヒカ大統領を丹念に取材、「人間にとっての幸せは何か」について考えさせられる作品として評価されました。



© 2020「ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ」製作委員会

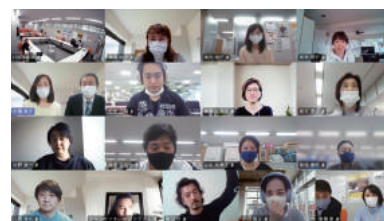
CSR推進体制



CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

フジテレビのCSR

フジテレビでは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月からCSR専門部署を設け、多岐にわたるCSR活動を行っています。映像コンテンツ・エンターテインメントをつうじて人々に楽しさ、感動を与え、放送文化に寄与するという社会的使命を認識し、それにより世の中の社会課題の解決につなげていくことを目標としています。



リモート会議の様子

推進体制

各部署から集められた約50人のCSRの社内横断組織（プロジェクトチーム）を構成し、そのメンバーとともに活動を考え、実行しています。役職、年齢等に関係なく多様な人材が集まることで、より豊かな発想とアイデアが生まれ、数多くの企画が実現しています。またメンバーを毎年入れ替え、社内のCSRに対する理解の浸透を図っています。



CSRレポート2021 編集方針

本レポートはフジテレビが2020年度に行ったCSR活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる活動を行ってきました。活動内容は公式サイトで随時公表していますが、本レポートはより読みやすく、みなさまにご理解頂きやすいように編集しました。フジテレビのCSRの取り組みを知って頂くきっかけになれば幸いです。

対象期間 2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日）

発行日 2021年6月24日

対象範囲 本レポートにおける対象範囲は、フジテレビを基本としていますが、一部フジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施した活動も掲載しています。

● CSR公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/>

発行：株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.

〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号

編集：CSR・SDGs推進室 [✉ csr.ss@fujitv.co.jp](mailto:csr.ss@fujitv.co.jp)





GAKU

20歳の自閉症アーティスト。川崎市在住。3歳の時に自閉症と診断され、4歳の時、最先端とされていた療育を受けるためにアメリカ・ロサンゼルスへ家族で渡る。9年間ロスで療育を受けながら過ごし、14歳の時に日本に帰国。父親が息子のために「新しい福祉」をめざして設立した株式会社アイムに在籍。16歳の時に突然絵を描き始め、2年後ニューヨーク・ブルックリンで個展を開催。その後も国内で個展を開いたり、様々な商品とのコラボも実現するなど、多方面から注目されている。

bygaku.com 「bygaku」で検索



Photo:Miyagawa Maiko

Gaku